



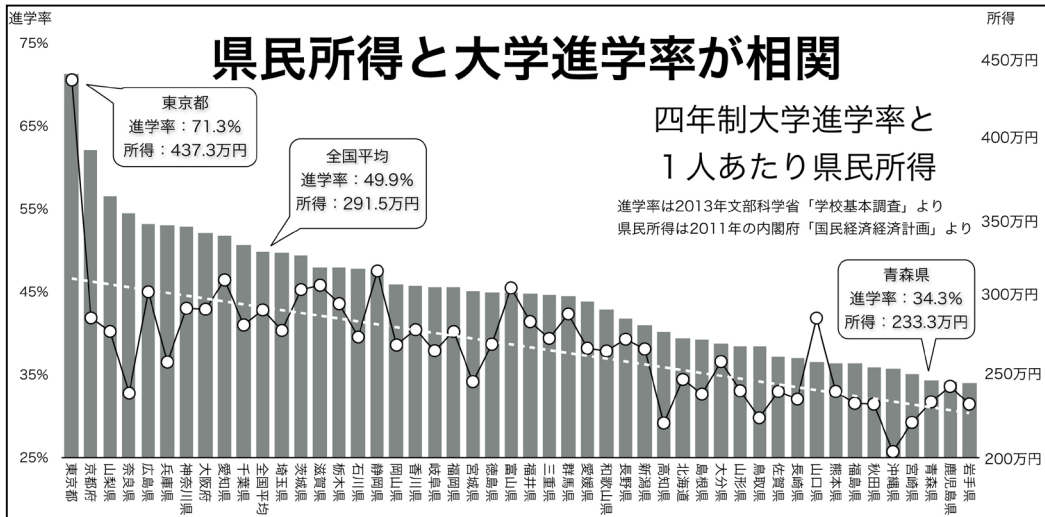
発行所  
青森県高等学校・障害児  
学校教職員組合  
青森市橋本1丁目2-25  
教育会館 017(734)7287  
編集発行人 田村儀則  
購読料一部20円は組合費  
の中に含む

### 全国教育署名



Eメール aokokyos@olive.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/aokokyoso/> ブログ <http://plaza.rakuten.co.jp/sannkyoso05/>

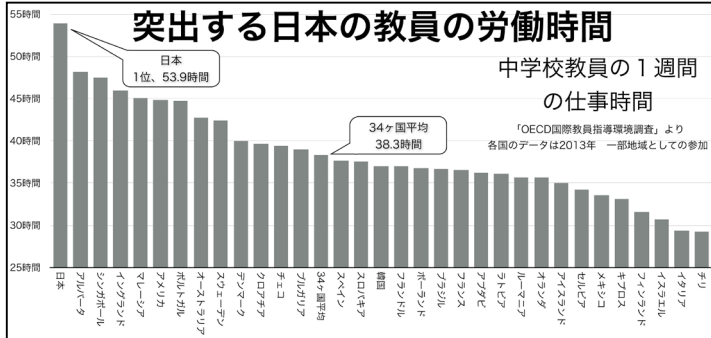
# 国の責任で教育条件整備を！



## 教育全国署名に取り組みましょう

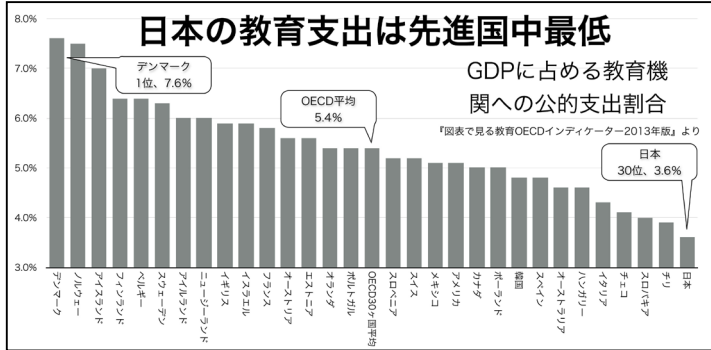
今年も教育予算の大幅増額を求める全国教育署名が始まりました。安倍政権による格差と競争の「教育再生」を圧倒的な国民の声で阻止し、30人学級と教育無償化を実現させましょう。

**広がる教育格差**  
四年制大学への進学率のランキングを見ると、最も高い東京都と



最も低い岩手県とは2倍以上の開きがあります。各県の大学進学率と県民の所得水準には強い相関関係が認められます。

**貧弱な教育予算**  
教員の1週間の労働時間の国際比較では、日本は53.9時間と突出しています。各国平均の1.4倍です。この突出した日本の教員の長時間労働と負の相関関係にあるのが教育への公的支出の低さです。世界一低い日本の公的



支出は、少ない教員数をはじめ、日本の教育体制の脆弱性となってあらわれています。

**2015年度概算要求**  
文部科学省の2015年度概算要求によると、全国学力テストに9億円増の70億円、道徳の教科化に15億円、スーパーグローバルハイスクールは3倍増の24億円など格差と競争を押し進める教育予算となっています。

いっぽう、30人学級や高校授業料の無償化復活や障害児学校の過大・過密解消策は示されていません。

## 坂道の風

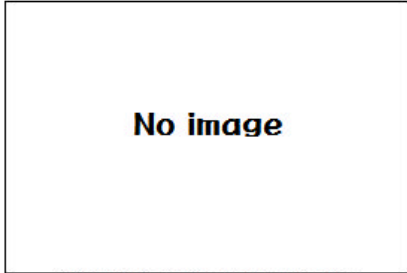
▼私が、教員を志した20代の時、最も影響を受けた教育実践家の一人は東井義雄である。彼は、生家は兵庫県のお寺さんで小学校教師であった。彼の名著『村を捨てる学力』で、よく「学力とは何か？」で引き合いに出される▼2011年3月11日大震災の復興に大奮闘する中で、石巻市立雄勝小学校教諭の徳水博志先生は、『故郷を愛し、故郷を復興する社会参加の学力』という学力観を提起した▼いっぽう政府は「超少子化社会」とか「地方創生」とか口では言いつつも、それとは裏腹に、各県の民間賃金とのバランスを考慮して「公務員の賃金（基本給）を2%削減」（これで東京と地方に最大20%の賃金格差！）を打ち出す。今でも、仙台市の都市手当6%、東京の都市手当20%なのに青森県に住むと0%である▼いくら思想（学力観）を変えても、金の流れる仕組みを変えないとまち・人・仕事を、地方に流れて来ないのではなからうか？（正村）



### 実習教員の現状を共通理解しました 北海道・東北ブロック実習教員学習交流集会

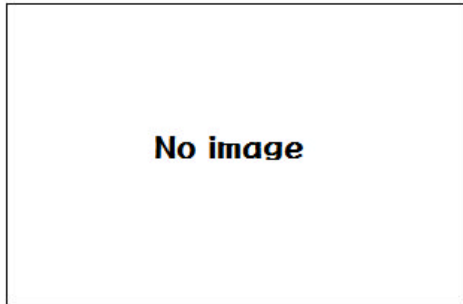
暖かい日差しが照りつける中、9月27日(土)・28日(日)の日程で、青森県教育会館を会場に各県の高校・障害児学校の実習教員など4組織10名が参加し、「2014年度 全道北海道・東北ブロック実習教員学習交流集会」を開催しました。

1日目は開会行事のあと青森市内散策会を行い、1980年に国の重要無形民族文化財に指定された「青森ねぶた」や「青森の食」に触れるため、駅前周辺を巡りました。散策途中に参加者から「青森工業高校新校舎を見学したい」とのリクエストがあったた



活発な意見交換をした参加者の皆さん

め急遽予定を変更し、新校舎見学ツアー隊と駅前散策隊との2つに分かれ、夜の交流会では、田村委員長を交え各県の話題を持ち寄り、遅くまで交流することが出来ました。2日目の分科会では、



運動の方向性を確認をした参加者の皆さん

### 現業職員の必要性を訴えよう

#### 北海道・東北ブロック高等学校現業職員集会

46回目を迎えたブロック集会が、10月11日～12日、本県の大間町「おおま温泉」海峽保養センターで行われ、開会集会では歓迎挨拶、青森高教組挨拶、基調報告、現業職員部大向部長からの実践報告が行われました。2日間通して行われた「各県のたのしみと交流」では、たのしいの成果や課題について交流し、給与や再任用などの切実な問題が参加者から多数出され、これまでの運動に加え、どうすれば打開できるかを話し合いました。

そのなかで、組合

各県の現状報告や県教委交渉要求の内容について意見交換し、実習教員が置かれている立場と今後の動向などを共通理解し合いました。

次年度開催の北海道からは、来年は是非、田村委員長にも参加してほしいとの絶大な誘いもありました。

### 實治のふるさと花巻と学習交流 全道共同北海道・東北ブロック学習交流集会

花巻温泉で10月4日・5日に教組共同北海道・東北ブロック学習交流集会が開催されました。この集会は北海道東北各道県の教職員組合が組織の枠を超えて参加する集会です。全教に加え盟していない岩手県の学校の先生方もたくさん参加し

し、同時に、かなりの難題であることが共通認識となりました。最後に身分確立を求めるとともに、全道で取り組むことを確認し集会を終えました。

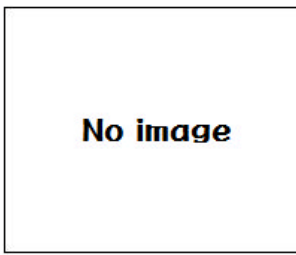
### 満天の星の下、語り合いのひととき

#### ～県教職員青年フェスタ「青TANE」～

さる、9月27日(土)・28日(日)、青年フェスタ「青TANE」が開催されました。青森県教組青年部との共催で、39歳以下の純青年部だけが得意なこと



語り合って、たまっていたストレスも吹き飛んだようでした。企画段階から青年部の意向を反映し、無事に成功させたこの企画。来年も開催できるように青年部ががんばっていきなさいです。



青森県の課題を報告する酒田書記長

状況を写真や映像を交えながら報告してくれました。2日目の賃金・労働条件の分科会では、北海道で来年1月から始まる査定昇給制度(勤勉手当の査定は08年から実施)についての詳細な報告がなされました。



# 名久井岳に登りました!

去る、10月12日、高教組三八支部と三八地労連の共催で名久井岳登山とパーベキューを行いました。参加者は14人でした。七合目までは車で登り、そこから約800mだけの登山でした。距離が短

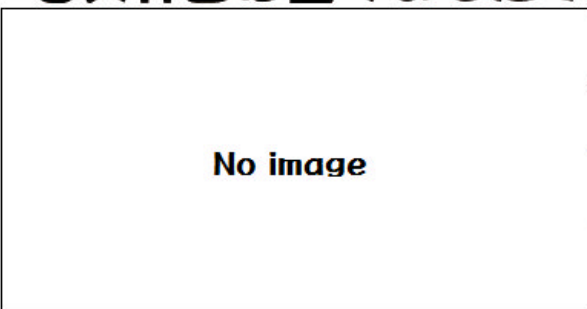
## 三八支部レクリエーション

第24回全国女性教職員学習交流会が岡山市民会館で開催され、全国から600人近い参加者がありました。胆な民間交流は重要だと思



## 「集まる」ことの重要性を再認識 全国女性教職員学習交流会in岡山

た。記念講演では、日中韓の絵本作家が連帯して平和絵本を作るといふ前代未聞の企画を実施した浜田桂子氏が、その経緯と感動的な体験を話され

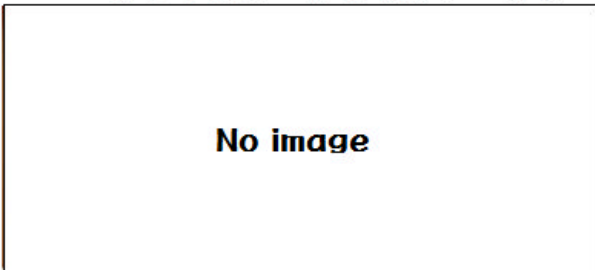


講座「学校の病気について考える」生徒相談室・教職員(沢田の杖塾長 森口章氏)に参加しました。全国的な引きこもり増加を踏まえ、「教育が生きる力を育てる事だ」と、日本の教育は既に沈没している」と指摘し、不登校対策を話されました。また「今の学校は教員が集まること自体が既に無い。集まる時間が全くない」とも指摘。女性部スローガンの「集まれば元気。つながれば勇気」の重要性を再認識した講演でした。

いので、安易に考えていたのですが、ただのハイキングではなく、まさにミニ登山に値する険しい道なのでした。それでも、山頂や山頂の直ぐ下の展望地の眺めは心を洗われるようでした。下山後はチェリリン村に移動し、パーベキューを楽しみました。焼き肉イカ刺し、マグロの兜焼き、ウインナーなどをそれぞれにほおぼり、会話が弾みました。久しぶりにリフレッシュできた休日でした。

## 第12回賛助会員のつどい

10月11日(土)、青森市アップルパレスにおいて「賛助会員のつどい」を開催しました。賛助会員というのは、退職後も陰に青森高教組を応援して下さっている方々のことです。



## 青年のように若々しく、燃えるような心で...

つどいには、最高齢(86歳)の高本先生、京都からおいでくださった飯田先生ほか、これまで高教組運動を支えてこられた方々、13名が参加してくださいました。近況紹介の中では、みなさんそれぞれに、今の政治を嘆き、国の行方や教育の在り方を憂い、戦争のない国づくりを進めなければならぬという強い思いで生活していること、そして、退職後も地域で平和や憲法を守る運動、反原発の運動、民主的な教育を進める運動等々に取り組んでいることをお話されていました。素晴らしい先方によって青森高教組の運動がつけられてきたことを改めて思い、いつまでも燃えるような青年の心を持ち続けているみなさんに、大いに刺激を受けたひと時でした。

# 2014年度 秋募集

- 医療共済** ●手術見舞金の対象を大幅拡大!
- 生命共済** ●40歳までの掛け金を大幅引き下げ!
- 地震特約付 **火災共済** ●自然災害にもつよい味方!



詳しくは職場配布のチラシで!

青森県教職員共済会  
TEL 017-732-1375  
FAX 017-732-1376  
e-mail: qkkyukai@comnet.ne.jp

